

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Alcohol Consumption During Pregnancy and Risk of Placental Abnormality: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 飲酒が妊娠に及ぼす影響について:胎盤の異常(前置胎盤、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤)

ユニットセンター(UC)等名: 甲信UC

サブユニットセンター(SUC)名: 信州大学SUC

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2019 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 大平哲史

所属UC名: 甲信UC

目的:

妊娠中の飲酒が胎盤異常(前置胎盤、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤)に及ぼす影響について検討すること

方法:

出生時全固定データを用い、80,020人の単胎妊娠の母を対象に、胎盤異常の発症をアウトカムとし、飲酒状況との関連について多変量解析を用い解析した。

結果:

妊娠中/後期まで飲酒していた妊婦は2.7% (2,112人)であった。前置胎盤、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤の発症率はそれぞれ、0.58% (467人)、0.43% (342人)、0.20% (160人)であった。交絡因子を調整した結果、母体の妊娠中の飲酒と癒着胎盤発症との間に関連を認めた (OR 3.03, 95% CI 1.69-5.44)。

考察:(研究の限界を含める)

これまで、飲酒と常位胎盤早期剥離との関連については報告があるが、癒着胎盤についての報告はない。今回の研究では妊娠中の飲酒と癒着胎盤の発症との間に関連を認めたが、機序は明らかではない。マウス胎児のアルコールばく露が胎盤形成に関わる子宮筋や栄養膜細胞、脱落膜に酸化ストレスを与えることが報告されており、妊娠中の飲酒が胎盤形成に影響を与える可能性がある。研究の限界点として、1)飲酒については自記式質問票からのデータであり主観的である、2)長期間のコホート研究参加者であるため、選択バイアスがあり得る、3)飲酒習慣に関する地域差は検討していない、4)胎盤異常の診断の詳細はわからないことが挙げられる。

結論:

母体の妊娠中の飲酒と癒着胎盤発症との間に関連を認めた。